

醍醐 龍馬

法学研究科・准教授

【研究】

令和7年度は、これまでの一連の研究成果を『明治政府と日露関係―樺太千島交換条約とその時代』(有斐閣、2025年)として単行本化した。さらに、口頭報告を3本し、国際政治学会の大会では部会企画「日露・日ソ間の諸条約とその影響―樺太千島交換条約(150周年)後から日ソ基本条約(100周年)後まで―」を組織した。また、科研費(挑戦的萌芽)による個人研究を進めながら、共同研究の代表者を務める科研費(基盤研究B)の研究会を年2回開催し(北海道根室市、大阪府豊中市)、うち1回は大阪大学法学会セミナーとの共催企画にすることで研究成果を学内にも還元した。会長を務めている日露関係史研究会では例会を4回開いた(第41～44回例会)。

また、前任校の共同研究者とともに文理融合・産学連携による知の社会実装に取り組み、商標登録(「榎本石鯨」登録番号7007590号)を取得し商品開発を進め、令和8年度中に発売される予定となった。本プロジェクトによる研究成果やその経緯については、共編著『榎本石鯨誕生の軌跡―文理融合から産学連携への挑戦』(小樽商科大学出版会、日本経済評論社(発売)、2026年)として纏めた。

【教育】

学部教育では、全学1年次対象の「学問への扉」、法学部2年次以上を対象にした日本政治史、学部2年次の法政基礎演習、学部3年次の演習、大学院教育では、日本政治史のほか留学生を対象にした日本政治総合演習を開講した。また、日本政治史専攻の大学院生1名の修士論文執筆を指導した。そのほか、修士論文1本の副査なども務めた。

【管理運営】

部局内では、大学院教務委員、広報委員、資料室室員及び大阪大学法学部青雲会学内幹事などを務めた。特に青雲会学内幹事としては、青雲会学生部(Law Crew)のサポートも行ったほか、青雲会副会長にも就任し懸賞論文主任担当を担った。そのほか、全学の役職としては、大阪大学アーカイブズ法人文書資料部門兼任教員および大阪大学先導的学際研究機構グローバルヒストリー研究部門兼任教員を務めた。

【社会貢献】

学会関係の役職では、日露関係史研究会会長、東アジア近代史学会理事を務めた。社会での役職としては、小樽市文化財審議会委員、大阪大学法学部青雲会幹事及び副会長を務めた。そのほか、市民講座を担当するなど専門分野の知見を社会に広く還元した。また、高大連携の一環として、大阪府立高津高校の生徒たちの研究室訪問を受け入れて教育を行った。